



学校図書館支援センター実務研修会開催報告

「図書館活用教育の推進をめざして」

I ～調べる学習 基本のスキル～

II ～問いと情報リスト作り+オリエンテーション～



令和6年8月1日、足立区教育委員会学校図書館スーパーバイザー、NPO 法人学校図書館実践活動研究会理事、藤田利江先生をお招きし、実務研修会を中央図書館で開催しました。

例年、小学校と中学校の開催日時を分けて実施していましたが、今年度は小学校、中学校の合同の開催となりました。多くの学校から参加があり、活気あふれる研修会となりました。

午前の部では調べる学習のやり方、まとめ方など、作成したものを発表しあう、和気藹々とした様子が見られました。

午後の部はいくつかのチャートを使い、「問い」をつくる方法を実践しました。また参考文献の正確な記入の方法などすぐに授業や学校図書館で役立つ知識を学びました。

今後の授業や学校図書館運営に生かして頂ければ幸いに思います。



「学校図書館は学校の中心にあるべきです!」と力説された藤田利江先生!
とてもエネルギーに溢れていらっしゃいました。



午後の部では閲覧室に足を運んで本を探しました。



各自、調べたテーマについて、1枚の画用紙に工夫しながらまとめていました。



実務研修を終えて

学校図書館は、学校教育において欠くことのできない施設であり、「読書センター」「学習センター」「情報センター」の3つの機能を有しています。つまり学校図書館は、読書活動推進のために利用されることに加え、調べ学習や新聞を活用した学習など、各教科等の様々な授業で活用されることで、学校における言語活動や探求活動の場となり、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に資する役割が一層期待される施設でもあるということです。そのためには各教科等において、学校図書館の機能を計画的に利活用し、児童生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実するように務めることが大切です。その際、各教科を機能的に捉え、学校図書館の利活用を基にした情報活用能力を学校全体として計画的、かつ体系的に指導するように務めていくことが、司書教諭の職務となります。

図書館活用は、子どもたちへの活用授業の実施とともに、先生方に機能を理解してもらうこと、活用の有効性を感じてもらうことが一番だと考えます。それには今回研修で行ったワークショップを先生方に体験していただくことも方法の一つだと考えます。

さてここで、各小中学校の図書館を振り返ってみましょう。探求活動が充分にできる所蔵となっていますか？所蔵の比率はどうですか？どちらかというと読み物が多くはないでしょうか？この夏、どの学校も蔵書点検を実施しました。再度、所蔵比率の確認をしてみてください。 学校図書館アドバイザー 高田 悦子

波崎第2中学校の取組を紹介します



波崎第2中学校では、生徒の読書量を増やす目的から、「サテライト ライブラリー」別名「お散歩図書館」と名付け、生徒がよく目に付く場所にミニ図書館を設置しました。「文庫本で楽しむ読書」「音楽」など一定期間ごとにテーマを設定して展示をしています。この取組の大きな目玉は、手に取るだけでなく、その場ですぐに本を借りることができることです。生徒たちの利用が少しずつ増えてきています。



個人情報に配慮した工夫

- ① 表紙に取り外し可能な番号を貼付
- ② タイトルを書かずに番号を貸出カードに記入



支援センター 2学期これからの動き

定期巡回
11月・12月で1回の訪問予定
※ 各校の訪問予定は電子メールにて確認してください。

- 不明本調査のご協力ありがとうございました。
- 年度末に向けて、計画的に除籍ができますようお願いします。
- 書架（本棚）整理も大切な仕事です。整理していると補修が必要な本や不足している分野の本に気づくことができます。お忙しいとは思いますが時間を見つけて作業されることをお勧めします。

